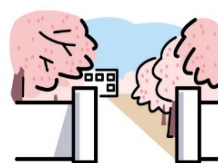


研究所だより

第386号
2018年 4月 9日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“春の小川は さらさら行くよ 岸のすみれや れんげの花に
すがたやさしく 色うつしく 咲けよ咲けよと ささやきながら”
『春の小川』 日本の童謡・唱歌 (1912)



～春爛漫 平成30年度スタート～

風に吹かれ舞い散る桜の花びらが、空を、地面を、水面を、桜色に染めるなか、各校では平成30年度の始業式、入学式が執り行われたことと思います。子どもたちの元気な声が教室やグラウンドを駆け巡っていることでしょう。

新年度を迎え、子どもも教師も夢や希望を持ち、やる気に満ちあふれていることでしょう。しかし、不安と期待が入り交じり、戸惑いもあろうかと思えます。教師集団がしっかりと子どもたちを支え、楽しく、喜びのある集団づくり・授業づくりに邁進して行くことを願っています。

～喜んで登校 満足して下校～



<教育センター職員の紹介>

この度の人事異動で新しく2名の職員を迎え入れ、オールスタッフ8名でスタートしました。本年度もよろしくお願いいたします。

土佐清水市教育センター職員一覧

土佐清水市教育センター Tel: 82-3015 Fax: 83-0782				
所長				
亀谷 幸則				
主管全般				
所長補佐				
上田 統夫				
主管全般補佐、庶務、予算等				
補導センター 82-3501	教育研究所 82-3015		適応指導教室 82-3016	SSW 82-3016
横山 充生 (補導教員)	勝間 康人 (主任研究)	岡田 佐知 (研究員)	泥谷 人美 (児童生徒相談員)	兼松 和典 出口 里奈
補導活動 相談活動 環境浄化活動 広報活動 研修活動	研究所主管全般	教育支援、調査研究 教育研究集会 情報教育、教育相談 不登校児童生徒支援 あすなる初ワーク 研究所庶務全般	不登校児童生徒支援 教育相談 あすなる教室	教育相談全般

(SSW=スクールソーシャルワーカー)

教育センターでは、補導センター、教育研究所、適応指導教室、SSWの4部署が横の繋がりを密にし、連携を保ちながら、児童・生徒を取り巻く教育環境の整備、教職員・保護者等の教育相談体制を確立し、様々な教育分野に対応していきます。

要は、教育全般に関わって、学校と先生と子どもと保護者のためにあるセンターです。特に先生方には利用していただければ幸いです。可能な協力と支援をさせていただきます。

○教育センターってどんな仕事をしているの？

【教育研究所】

- ・教育関係職員の研修に関すること
- ・教育相談に関すること
- ・教育に関する情報の収集、処理及び活用に関すること
- ・教育機器及び教材の調査並びにその活用に関すること

【適応指導教室】

- ・不登校児童生徒の健全な育成に関すること

【補導センター】

- ・青少年の健全育成に関すること

<着任挨拶～よろしくお祈いします～>

☆^{うえた のりお}上田 統夫 (教育センター所長補佐)

4月1日付人事異動で、市役所農林水産課より着任しました。上田統夫と申します。住所は、上野で私も社会人になった3人の子どもも益野小、三崎中を卒業しました。子どもが学校に行っている間はPTA、クラブ活動の役員をさせていただき、先生方には大変お世話になりました。とても興味のある職場に来させていただきました。よろしくお祈いします。

☆^{おかだ さち}岡田 佐知 (教育研究所研究員)

今回の異動で大月町立大月小学校より教育研究所でお世話になることになりました。学校現場を離れての仕事は初めてですが、一つひとつ頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお祈いします。

☆書籍の紹介☆ ～ご利用をお待ちしています～

○「君たちはどう生きるか」 原作：吉野源三郎

- ・日本を代表する歴史的名著。
- ・子ども、親、祖父母三代で読まれている本。



☆楽しい学校・学級づくり

学校（学級）は、子どもたちにとって集団生活の基盤です。自分と心の通い合う仲間がいる。その事が学校生活を充実したものにします。一人ひとりがかけがえのない存在として尊重され、安心して生活する権利を持っていることに気づかせ、心の通い合う温かい人間関係を育てていくことが大切です。そうした面で教師は、児童生徒の集団を教育していく宿命にあります。集団を活用できる素晴らしい仕事をしています。その集団づくりが教師の仕事の中心であり、**集団づくり**ができるかどうかの仕事の成否も左右します。良い集団づくりをして、個々の児童生徒を良くして、更に集団が良くなって、個々の児童生徒が更に良くなる良好な環境を作り出すことが大切です。

学校生活で、子どもたちが一番長く過ごすのが授業の時間です。この時間が満たされていること（わかり、できて、使えて、学び合える）が子どもたちの喜びとなります。教師の授業力向上とより良い集団づくりは車の両輪です。両輪がうまくかみ合えば互いに相乗効果を発揮していきます。子どもと共により良い集団づくり、授業づくりに取り組んでいきましょう。

☆規律ある学級づくり・授業づくりは「時間の管理」から

学校という集団生活の中で子どもに「時間を守る」ことを指導することはとても大事なことです。チャイムや時計を見て、次に何をしたらよいか考えさせるようにして、時間を管理できるようになっていけば、生活にメリハリがついていくようになっていくことでしょう。

子どもの自立には「社会性」「時間の管理」「金銭の管理」「物の管理」の4つが必要だと言われています。自立の中で、特に「時間の管理」を実感させられるのは、学校の生活・学習の中での取り組みです。

しかし、子どもに指導するばかりではなく、子どものお手本でもある教師も時間に気をつける必要があります。子どもには「時間が大事」と、チャイムで席に着くことを要求することがあります。

でも、授業のチャイムが鳴っても平気で授業を続ける教師のなんと多いことか。子どもにとっては休み時間が大事です。チャイムが鳴ってから授業のまとめなんてうわの空です。授業の終わりを告げるチャイムが鳴ったら授業を切り上げて終わりにすることは絶対に必要なことです。さわやかに授業を終了し、残った課題は次時に回してしまうのが良いでしょう。

「時間を守る」ことを要求し、学習の「約束」にするのでしたら、まず教師が率先して時間を守る必要があります。そこに気をつけて、教師が子どもの見本になることで、子どもも時間を守ることを実感し、守る学級になっていくことでしょう。



☆家庭訪問で子どもの姿をつかむ ～最初の出会いを大切に～

家庭訪問は、「家庭での子ども様子や保護者の教育要求を聞いて、今後の教育に役立てるために行う。」という点をしっかりおさえておく必要があります。

最初の出会いですから、まずは保護者の話を聞く（傾聴）ことです。話を受け止めることから良好な関係（パートナー）ができてきます。話の中で「それは…」 「けれど…」と、疑問を呈したり、否定的な言葉が出ると話は進みません。保護者の悩みに耳を傾け、共感的理解者になることから、共同の歩みが始まります。その点を配慮しながら家庭訪問に臨んではいかがでしょうか。

具体的におさえるポイントとして

○子どもの育っている教育環境から子どもの姿をつかむ

- ・災害、防災等の緊急時に対応するために、子どもの家の所在地を確認する。
- ・子どもの生活環境を知る。（地域の特性、通学路や危険箇所、家庭学習、遊び場、家事分担など）
- ・保護者の子どもについての考えなどを率直に聞く。（育児観、教育観）
- ・家庭における子どもの長所、短所を知る。（親の子ども観など）
- ・保護者と教師の情報交換、相互理解を図る。（子どもの病気、怪我、進路、友だち関係など、学校では話せないことなども話し合う場になる）
- ・保護者と子、教師の信頼関係を築く。
- ・保護者からの学校や担任への期待や要望を聞き、収集する。



中浜小学校